

# 数值計算

大阪大学基礎工学部

永原正章

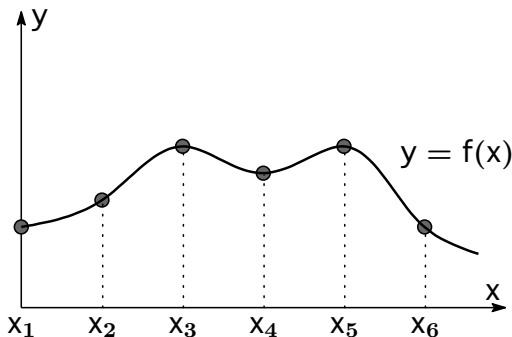
2012年7月19日(5限)

## 補講・期末試験のお知らせ

- 来週,7月26日(木)は6限目に補講があります.
  - 教室は B102(5限目,6限目)
- 再来週,8月2日(木)は期末試験です.教室は B103 です.
  - 練習問題の類題をいくつか出題しますので,しっかり復習しておいてください.

## 多項式補間

- Lagrange 補間:  $N$ 個のデータをすべて通る  $N - 1$  次多項式を簡単に求める方法.
- 多項式補間ですべてうまく行く?



## 多項式補間の例

- 次のデータが与えられているとする.

x	1	2	3	...	18	19
y	2	4	6	...	36	38

- これに対する補間多項式は明らかに,  $y = 2x$ .

## 多項式補間の例

- 次のデータが与えられているとする.

x	1	2	3	...	18	19
y	2	4	6	...	36	38

- 何らかの原因で,yに**微小なノイズ**

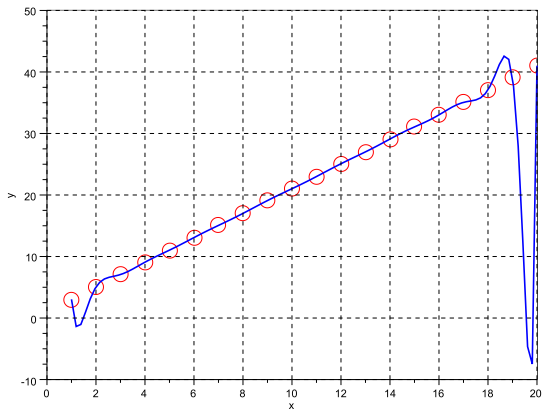
0.041, 0.035, 0.069, ..., 0.078, 0.012

が加わったとする.

- これに対する補間多項式を求めると...

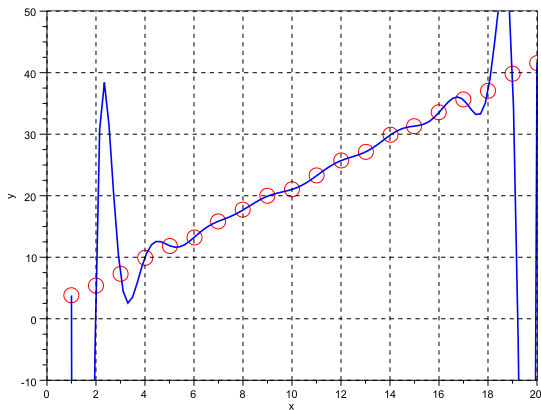
# 多項式補間の例

- 直線から大きく外れる



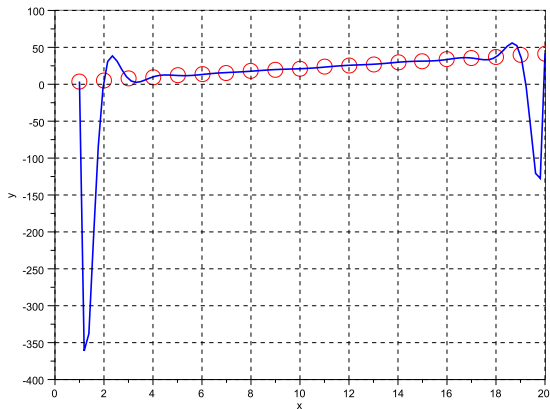
# 多項式補間の例

- ノイズをさらに10倍してみると...



# 多項式補間の例

- 曲線は直線から大きく外れている





## 多項式補間の欠点

- データ点が多いほど,多項式の次数が大きくなり,小さなノイズが大きく増幅される
- 与えられたデータにノイズがあるときは,  
その点を必ず通るという要求は意味が無い
- データ点のなるべく近くを通る多項式を求める(回帰)
- データ点と曲線との近さを2乗誤差または2乗ノルムで測り,それを最小化する(最小二乗法)

## 最小2乗近似問題

- $N$  組のデータ  $\{(x_n, y_n)\}_{n=1}^N$  が与えられたとき、次の**2乗誤差**(squared error)

$$E = \sum_{n=1}^N |y_n - f_M(x_n)|^2.$$

を最小にする  $M$  次多項式  $f_M(x)$  を求めよ

- 多項式の次数  $M$  はあらかじめ与えられているものとする.

# 最小2乗近似問題

- 求めるM次多項式  $f_M(x)$  を

$$f_M(x) = c_0 + c_1x + \cdots + c_Mx^M = \sum_{m=0}^M c_mx^m$$

とおく.

- 2乗誤差  $E$  を最小化する係数  $c_m$  ( $m = 0, 1, 2, \dots, M$ ) を求める.

# 最小2乗近似問題

## ■ 多項式

$$f_M(x) = c_0 + c_1x + \cdots + c_Mx^M = \sum_{m=0}^M c_mx^m$$

を

$$E = \sum_{n=1}^N |y_n - f_M(x_n)|^2.$$

に代入すると...

## 最小2乗近似問題

次式が得られる.

$$\begin{aligned} E &= \sum_{n=1}^N |y_n - f_M(x_n)|^2 \\ &= \sum_{n=1}^N \left( y_n - \sum_{m=0}^M c_m x_n^m \right)^2 \\ &= \sum_{n=1}^N y_n^2 - 2 \sum_{n=1}^N y_n \sum_{m=0}^M c_m x_n^m + \sum_{n=1}^N \left( \sum_{m=0}^M c_m x_n^m \right)^2 \end{aligned}$$

## 最小2乗近似問題

- E を最小化する  $c_0, c_1, \dots, c_M$  を求めたい
- 最小値  $\Rightarrow$  E の  $c_0, c_1, \dots, c_M$  による微分が 0 になる

$$\frac{\partial E}{\partial c_m} = 0, \quad m = 0, 1, 2, \dots, M$$

- すなわち  $m = 0, 1, 2, \dots, M$  に対して

$$\frac{\partial E}{\partial c_m} = -2 \sum_{n=1}^N y_n x_n^m + 2 \sum_{n=1}^N \sum_{k=0}^M c_k x_n^{m+k} = 0$$

- E は  $c_0, c_1, \dots, c_M$  の 2 次式  $\Rightarrow$  E の微分は  $c_0, c_1, \dots, c_M$  の 1 次式

# 最小2乗近似問題

## ■ 線形方程式

$$\sum_{n=1}^N \sum_{k=0}^M c_k x_n^{m+k} = \sum_{n=1}^N y_n x_n^m, \quad m = 0, 1, 2, \dots, M$$

## ■ ここで

$$\sum_{n=1}^N x_n^{m+k} = \alpha_{mk}, \quad \sum_{n=1}^N y_n x_n^m = \beta_m, \quad m, k = 0, 1, 2, \dots, M$$

とおくと

$$\sum_{k=0}^M \alpha_{mk} c_k = \beta_m, \quad m = 0, 1, 2, \dots, M$$

# 最小2乗近似問題

$$\sum_{k=0}^M \alpha_{mk} c_k = \beta_m, \quad m = 0, 1, 2, \dots, M$$

これを行列形式で書くと

$$\begin{bmatrix} \alpha_{00} & \alpha_{01} & \cdots & \alpha_{0M} \\ \alpha_{10} & \alpha_{11} & \cdots & \alpha_{1M} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ \alpha_{M0} & \alpha_{M1} & \cdots & \alpha_{MM} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} c_0 \\ c_1 \\ \vdots \\ c_M \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \beta_0 \\ \beta_1 \\ \vdots \\ \beta_M \end{bmatrix}$$

この線形方程式を**正規方程式(normal equation)**と呼ぶ。



## 最小2乗近似問題 まとめ

- N組のデータ  $\{(x_n, y_n)\}_{n=1}^N$  を用いて, 次の  $\alpha_{mk}$  と  $\beta_m$  を定義する.

$$\alpha_{mk} = \sum_{n=1}^N x_n^{m+k}, \quad \beta_m = \sum_{n=1}^N y_n x_n^m, \quad m, k = 0, 1, 2, \dots, M$$

- 次の正規方程式を解いて,  $c_0, c_1, \dots, c_M$  を求める.

$$\begin{bmatrix} \alpha_{00} & \alpha_{01} & \dots & \alpha_{0M} \\ \alpha_{10} & \alpha_{11} & \dots & \alpha_{1M} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ \alpha_{M0} & \alpha_{M1} & \dots & \alpha_{MM} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} c_0 \\ c_1 \\ \vdots \\ c_M \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \beta_0 \\ \beta_1 \\ \vdots \\ \beta_M \end{bmatrix}$$

- 最小2乗近似多項式は次式で与えられる.

$$f_M(x) = c_0 + c_1 x + \dots + c_M x^M = \sum_{m=0}^M c_m x^m$$

## 線形近似☆☆☆

- $N$  組のデータ  $\{(x_n, y_n)\}_{n=1}^N$  が与えられたとき,
- これらのデータ点に対する,  $M = 1$  次の近似多項式, すなわち直線を求める(線形近似).

$$f_1(x) = c_0 + c_1x.$$

## 線形近似

- $\alpha_{mk}$  と  $\beta_m$  ( $m, k = 0, 1$ ) を定義する.

$$\alpha_{00} = \sum_{n=1}^N x_n^{0+0} = \sum_{n=1}^N 1 = N, \quad \alpha_{01} = \sum_{n=1}^N x_n^{0+1} = \sum_{n=1}^N x_n,$$

$$\alpha_{10} = \sum_{n=1}^N x_n^{1+0} = \sum_{n=1}^N x_n = \alpha_{01}, \quad \alpha_{11} = \sum_{n=1}^N x_n^{1+1} = \sum_{n=1}^N x_n^2,$$

$$\beta_0 = \sum_{n=1}^N y_n x_n^0 = \sum_{n=1}^N y_n, \quad \beta_1 = \sum_{n=1}^N y_n x_n^1 = \sum_{n=1}^N y_n x_n.$$

## 線形近似

- 正規方程式は

$$\begin{bmatrix} \alpha_{00} & \alpha_{01} \\ \alpha_{10} & \alpha_{11} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} c_0 \\ c_1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \beta_0 \\ \beta_1 \end{bmatrix}.$$

すなわち

$$\begin{bmatrix} N & \sum_n x_n \\ \sum_n x_n & \sum_n x_n^2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} c_0 \\ c_1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \sum_n y_n \\ \sum_n y_n x_n \end{bmatrix}.$$

- ただし  $\sum_n$  は  $\sum_{n=1}^N$  の意味.

## 線形近似☆☆☆

## ■ 正規方程式を解くと

$$c_0 = \frac{m_{xx}m_y - m_x m_{xy}}{m_{xx} - m_x^2} = m_y - c_1 m_x \quad (\text{直線の切片}),$$

$$c_1 = \frac{m_{xy} - m_x m_y}{m_{xx} - m_x^2} = \frac{x \text{と} y \text{の共分散}}{x \text{の分散}} \quad (\text{直線の傾き}).$$

ただし,

$$m_x := \frac{1}{N} \sum_{n=1}^N x_n, \quad m_y := \frac{1}{N} \sum_{n=1}^N y_n,$$

$$m_{xx} := \frac{1}{N} \sum_{n=1}^N x_n^2, \quad m_{xy} := \frac{1}{N} \sum_{n=1}^N x_n y_n$$

## 線形近似 まとめ☆☆☆

- データ  $\{x_n, y_n\}_{n=1}^N$  が与えられたとき, これらのデータに対する線形近似直線

$$y = c_0 + c_1x$$

を求める.

- 1 データから各平均値  $m_x, m_y, m_{xx}, m_{xy}$  を求める.
- 2 傾き  $c_1$  を共分散と分散の比

$$c_1 = \frac{m_{xy} - m_x m_y}{m_{xx} - m_x^2}$$

により求める.

- 3 直線の式  $y = c_0 + c_1x$  に  $x = m_x, y = m_y$  を代入し,  $c_0$  を求める.

## 例題

- 次のデータについて2乗誤差  $E$  を最小にする関数  $f(x) = be^{ax}$  を求めよ (係数  $a$  と  $b$  を求めよ).

x	1	2	3	4
y	7	11	17	27

## 例題

- 次のデータについて2乗誤差  $E$  を最小にする関数  $f(x) = be^{ax}$  を求めよ (係数  $a$  と  $b$  を求めよ).

x	1	2	3	4
y	7	11	17	27

- 関係式  $y = f(x) = be^{ax}$  より,両辺の対数をとると,

$$\log y = ax + \log b$$

- $z = \log y$ ,  $c = \log b$ とおくと

$$z = ax + c$$



## 例題

- データのyの対数をとって

x	1	2	3	4
$z = \log y$	$\log 7$	$\log 11$	$\log 17$	$\log 27$

- すなわち,

x	1	2	3	4
z	1.946	2.3979	2.8332	3.2958

を近似する直線

$$z = ax + c$$

を求めればよい.

## 例題

					平均
x	1	2	3	4	2.5
z	1.946	2.3979	2.8332	3.2958	2.6182

- x, z の平均は

$$m_x = \frac{1 + 2 + 3 + 4}{4} = 2.5,$$

$$m_z = \frac{1.946 + 2.3979 + 2.8332 + 3.2958}{4} = 2.6182.$$

## 例題

					平均
x	1	2	3	4	2.5
z	1.946	2.3979	2.8332	3.2958	2.6182
x <sup>2</sup>	1	4	9	16	<b>7.5</b>

- x<sup>2</sup> の平均は

$$m_{xx} = \frac{1^2 + 2^2 + 3^2 + 4^2}{4} = \mathbf{7.5}$$

## 例題

					平均
x	1	2	3	4	2.5
z	1.946	2.3979	2.8332	3.2958	2.6182
x <sup>2</sup>	1	4	9	16	7.5
xz	1.9459	4.7958	8.4996	13.1833	<b>7.1062</b>

- x と z の積 xz の平均は

$$\begin{aligned}m_{xz} &= \frac{1 \times 1.946 + 2 \times 2.3979 + 3 \times 2.8332 + 4 \times 3.2958}{4} \\ &= \mathbf{7.1062}.\end{aligned}$$

## 例題

					平均	分散
x	1	2	3	4	2.5	
z	1.946	2.3979	2.8332	3.2958	2.6182	
x <sup>2</sup>	1	4	9	16	7.5	1.25
xz	1.9459	4.7958	8.4996	13.1833	7.1062	0.5607

- 以上より,

$$m_x = 2.5, \quad m_z = 2.6182, \quad m_{xx} = 7.5, \quad m_{xz} = 7.1062$$

- 分散と共分散は

$$m_{xx} - m_x^2 = 7.5 - 2.5^2 = 1.25,$$

$$m_{xz} - m_x m_z = 7.1062 - 2.5 \times 2.6182 = 0.5607.$$

## 例題

					平均	分散
x	1	2	3	4	2.5	
z	1.946	2.3979	2.8332	3.2958	2.6182	
x <sup>2</sup>	1	4	9	16	7.5	1.25
xz	1.9459	4.7958	8.4996	13.1833	7.1062	0.5607

## ■ 直線の傾きは

$$a = \frac{\text{共分散}}{\text{分散}} = \frac{0.5607}{1.25} = 0.4486.$$

## 例題

					平均	分散
x	1	2	3	4	<b>2.5</b>	
z	1.946	2.3979	2.8332	3.2958	<b>2.6182</b>	
$x^2$	1	4	9	16	7.5	1.25
xz	1.9459	4.7958	8.4996	13.1833	7.1062	0.5607

- 直線の傾き  $a = 0.4486$
- 直線の式

$$z = ax + c$$

に  $x = m_x = \mathbf{2.5}$ ,  $z = m_z = \mathbf{2.6182}$  を代入して

$$\mathbf{2.6182} = 0.4486 \times \mathbf{2.5} + c, \quad \therefore c = 1.4968$$

## 例題

- $x$ と $z$ の関係は

$$z = 0.4486x + 1.4968$$

と求まった.

$$z = \log y, \quad c = \log b, \quad \therefore y = e^z, \quad b = e^c$$

より,もとの関係式は

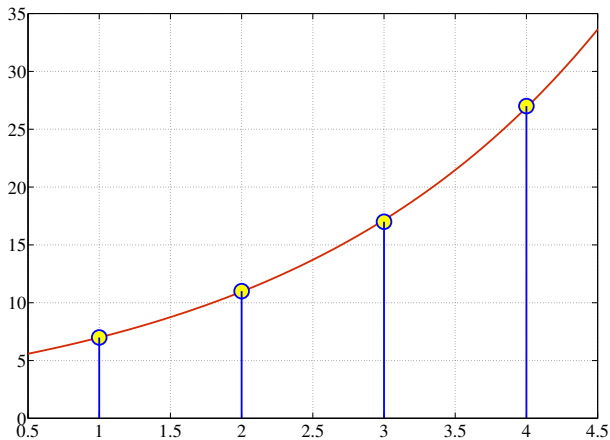
$$y = e^z = e^{ax+c} = e^c e^{ax} = 4.4674e^{0.4486x}$$

となる.



## 例題

データ点と最小2乗近似曲線  $y = 4.4674e^{0.4486x}$



## 練習問題

- 次のデータに対する最小2乗近似直線  $y = ax + b$  を求めよ.

x	0	1	2	3	4
y	1	2	3	3	4

## 練習問題

- 次のデータに対する最小2乗近似直線  $y = ax + b$  を求めよ.
- ヒント: 次の表の空欄を埋めよ.

		平均	分散
x	0 1 2 3 4		—
y	1 2 3 3 4		—
$x^2$			
xy			

- 直線の傾き  $a = \text{共分散} / \text{分散}$
- 切片  $b$  は直線の式  $y = ax + b$  に  $x = m_x$ ,  $y = m_y$  と上で求めた  $a$  の値を代入して求める.

## 解答

						平均	分散
x	0	1	2	3	4		—
y	1	2	3	3	4		—
$x^2$	0	1	4	9	16		
xy	0	2	6	9	16		

## 解答

						平均	分散
x	0	1	2	3	4	2	—
y	1	2	3	3	4	2.6	—
$x^2$	0	1	4	9	16	6	
xy	0	2	6	9	16	6.6	

## 解答

						平均	分散
x	0	1	2	3	4	2	—
y	1	2	3	3	4	2.6	—
$x^2$	0	1	4	9	16	6	2
xy	0	2	6	9	16	6.6	1.4

$$\text{分散} = m_{xx} - m_x^2, \quad \text{共分散} = m_{xy} - m_x m_y$$

- 直線の傾きは  $a = \text{共分散} / \text{分散} = 1.4 / 2 = 0.7$

## 解答

						平均	分散
x	0	1	2	3	4	2	—
y	1	2	3	3	4	2.6	—
x <sup>2</sup>	0	1	4	9	16	6	2
xy	0	2	6	9	16	6.6	1.4

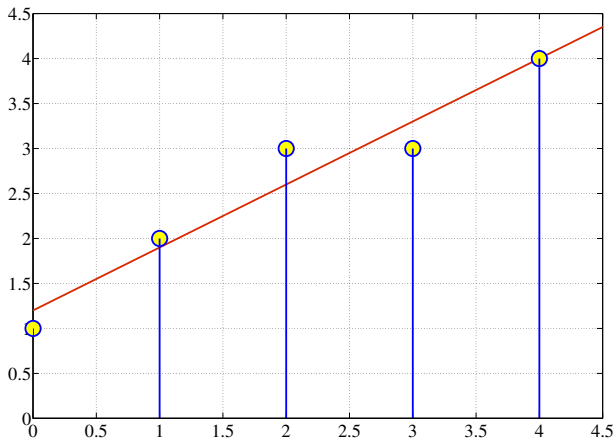
- 直線の傾きは  $a = \text{共分散} / \text{分散} = 1.4 / 2 = 0.7$
- 切片は  $m_y = am_x + b$  より

$$b = m_y - am_x = 2.6 - 2 * 0.7 = 1.2$$

- 以上より,直線の方程式は

$$y = 0.7x + 1.2$$

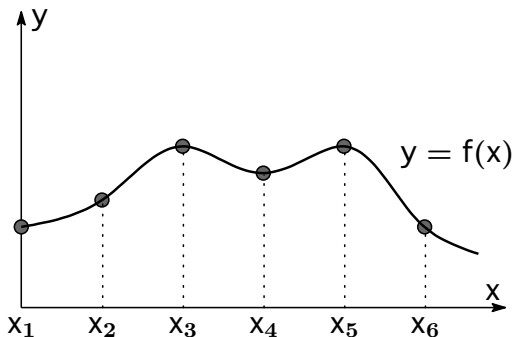
## 解答

データ点と最小2乗近似直線  $y=0.7x+1.2$ 



## Lagrange 補間の応用

- Lagrange 補間:  $N$ 個のデータをすべて通る  $N - 1$  次多項式を簡単に求める方法.
- 複雑な関数の積分値の計算に使うことができる.



# 数値積分

- 区間  $[a, b]$  上の可積分関数  $f$  が与えられたとき,

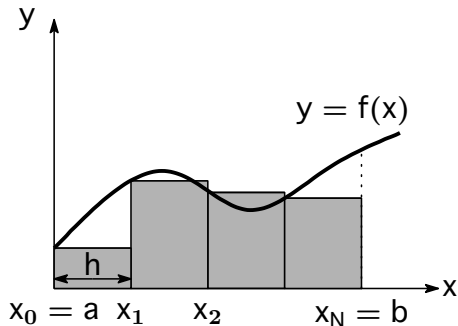
$$I = \int_a^b f(x) dx$$

の値を求めよ.

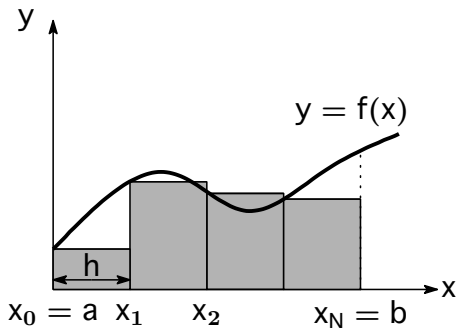
- 積分値  $I$  を厳密に求めることはほとんどの場合, 困難.
- 関数  $f$  積分が簡単な関数で近似し, 積分の近似値を求める.
- 積分が簡単な関数 = 多項式関数

# 矩形公式

- 積分が簡単な関数 = **多項式関数**
- 一番簡単な関数 = **0次多項式** (区分的に定数の関数)
- 区間  $[a, b]$  を  $N$  等分し, 分割の幅を  $h = \frac{b-a}{N}$  とおく.



## 矩形公式

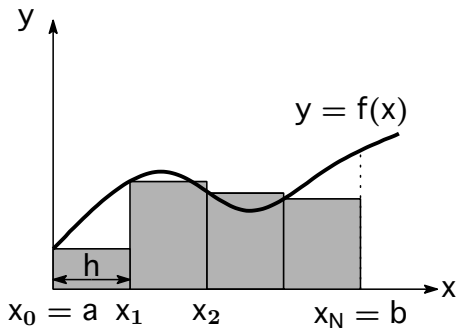


- 区間  $[a, b]$  上の各分点を

$$x_n = a + n \cdot \frac{b - a}{N} = a + nh, \quad n = 0, 1, 2, \dots, N$$

とおく.

# 矩形公式



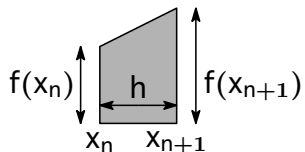
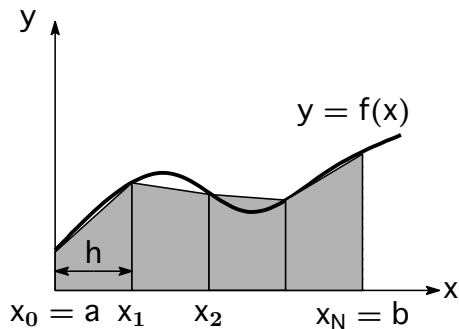
- 矩形公式による積分の近似値:

$$I_0 = \sum_{n=0}^{N-1} f(x_n)h = h \sum_{n=0}^{N-1} f(x_n)$$

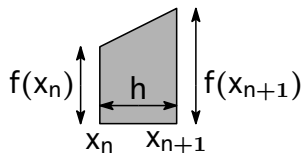
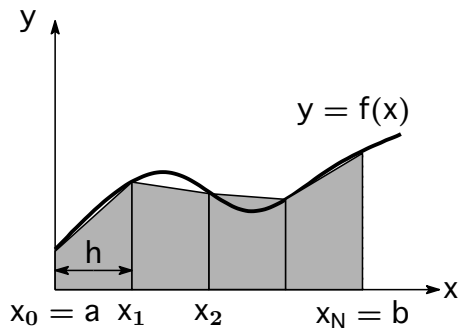
で与えられる(矩形公式).

## 台形公式

- 区分的 1 次関数で近似



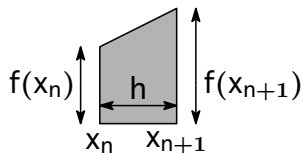
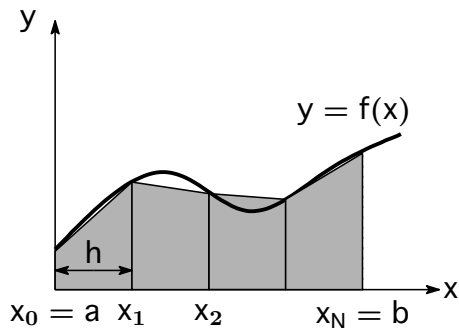
## 台形公式



区間 $[a, b]$ を $N$ 等分

$$x_n = a + n \cdot \frac{b-a}{N} = a + nh, \quad n = 0, 1, 2, \dots, N, \quad h = (b-a)/N$$

## 台形公式

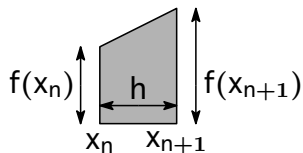
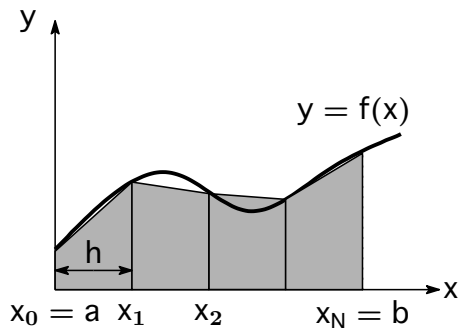


- 面積  $I =$  台形の面積の和. 各台形の面積を  $I_1^{(n)}$  とおくと,

$$I_1^{(n)} = \frac{f(x_n) + f(x_{n+1})}{2} h, \quad n = 0, 1, 2, \dots, N-1$$



## 台形公式

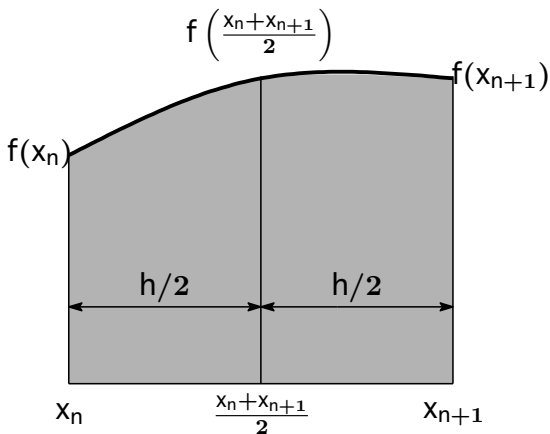


- 台形公式による積分値の近似値 $l_1$ :

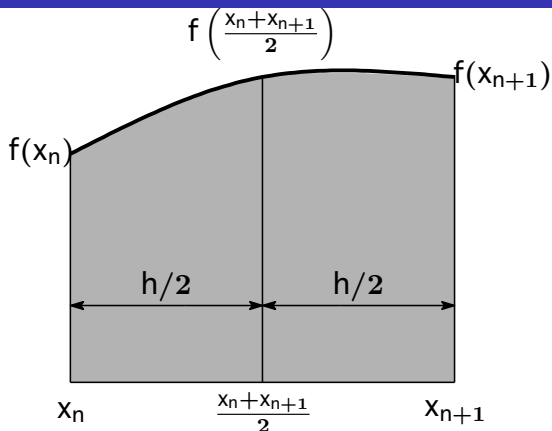
$$l_1 = \sum_{n=0}^{N-1} l_1^{(n)} = \frac{h}{2} \sum_{n=0}^{N-1} \{f(x_n) + f(x_{n+1})\}$$

# Simpson の公式

- 関数  $f$  を区分的 2 次関数で近似



## Simpsonの公式



- 3点  $(x_n, f(x_n))$ ,  $(M_n, f(M_n))$ ,  $(x_{n+1}, f(x_{n+1}))$  を通る 2 次関数で区間  $[x_n, x_{n+1}]$  上の  $f$  を近似する

## Simpsonの公式

- 各区間でLagrange補間公式により2次多項式を求め,積分を実行する.
- それらを足し合わせると

$$I_2 = \frac{h}{6} \sum_{n=0}^{N-1} \left\{ f(a + nh) + 4f\left(a + nh + \frac{h}{2}\right) + f(a + nh + h) \right\}$$

が得られる(Simpson の公式).